

四倉町民の死活問題たる漁港修築の財源發見さる

須く町民は町營漁市場に賛成すべし

佐藤幸三郎

八月廿四日四倉町會は魚市場を町營に決議した事に就て漁業家一部が反対の意見が有りますが而し現在の漁業家が若し漁港が出来ない時は今後如何なる結果となりますが又魚代の立替は如何なることになつて居りますか廻船が年々如何なる理由の爲めに減退したのでありますか、以上の結果の如きは如何なる不利を繰返しつゝあるか等に就てお互町民の經濟は如何なる情態を來して居るか一般漁商者は年々如何なる不利を繰返しつゝあるか等に就てお互町民當業者の失敗を來して居る個人の立場を超越して四倉町百年の将来を遠慮して居りますから事新たに物を取るべき方針に善處すべき

誠意の証議の方策決定

爲政當局と町議諸君の正義の努力

非望を擁した政黨が一部策定するべきを廻船とその運営権を掌握し種々要宣傳と其語る必要がありません

斯る理由で漁港完成する時

大欠損として永年非

常なる損失を繰返して年々

廻船並に漁港によ

來の爲め多少の犠牲を拂つて陸上げしたる漁船に廻船三分地船一分五厘の賦合金を徴集して築港費の負擔

益者たる漁業家の捐出しを甘受して居るに拘らず其當業者即ち直接受

信頼を確立することが第一番に必要な條件である

廻船並に漁港によ

來の爲め多少の犠牲を拂つて完成に依りて來るべきは實際が嚴然と證明し



酔ごう

三才家金之助